法政大学学術機関リポジトリ
HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2024-07-28

宗いん袖下

節章句秘傳

宗筠袖下　九

竹林之七賢

嵇康　阮籍　阮咸　尚秀　刘伶　王戎　山濤

孔金春流詠口傳集

宗鈞袖下

一柏子すの事

一さし琴の事

一次第の事

一ごとき事

一さし琴の事

一四りの数の事

一道詠の事

一読物の事

一曲舞文字四種皆の事
一謡之作の事
一謡の姿水鳥に似たるの事
一句の二字の事
一能相の事
一三曲の事
一呂律の事
一謡三命の事
一肩の一字の事
一謡に云字四不の事
一字ひらりの事
一露山の事
一太音の事
一口舌居の事
一竪拍の事
一五相の事

一服の紙謡の拍の事
一女三人の拍の事
一武者三重の事
一面小鼓大鼓太鼓上おろしの事
一舞は心を謡に付謡のこころを舞の事
一弦は一謡と舞を拍子に付るの
一不動の時は一節を謡事
一宮高面薙羽の事
一鬼三人の拍の事
一ヒタ面の事
一女三重の事
一十二調子の事

一文音こと事
一文字の紙のこと
一五七くの句の事
一考ほうの事
一百々有多良理千理弥多良理の事
一三朝ノ風流三ヲ分ル乃変
一ら世乃色の事
一紙を詠様の事

一四聲乃事 口
一詠本書様の事
一文七ミアマルミコス指ナの変
一節の数の事
一三字ナカ以ル節のこと 付文字法の
一辻詠の事

一内詠の事 付座変ニ習在こと事
一天卍の一字の事
一風変視子甲しこと
一水方大数ヲ詠ヘ作時詠事
一保馬乗接こと深の変是用こ云フ元
一奉氏こと事
一文尺ノ戒菖蒲水鉄なこすの事
一曉聲をはこと様のこと 一詠初心を題月ヲ成変
一四度ニかこと事

一物語の事

一紙に相應の仮名のあるべき事

一申樂の二字神とわ始る事

一森九右九の事

一詠時文字稜の事

一詠の節と云事

一初心初者老若依然不為詠指南の事

一詠為初者何ツマヲ初心の心をわすれ接度

一生中三度詠替事

一詠内法わの事

一畫夜とも非淡多毒事

一武者文字度法語事

一同音成時詠様の事

一上ハ詠生ずる人侍事

一詠寸法の事

一初句時詠時句ハ越へよひさしくハて続と云事

一詠時月を如さして詠事

一詠と時ハ節を忘ふ勤多在数様事

一大敵の時切指の事

一御思さしの面給の詠やり長短の事

一詠付取之事

一詠上ゑと可事

一獨り詠様の事

一主君ゟ扇被下時事

一主君ゟ小鼓給く仕る事の事
一主人ゟ何し詠と被仰付時詠之事
一主君ゟ一さしと仕る時の事
一主君外方之時一人にて出し詠時刀を置候事
一主君外方男さしにて出て時詠候事
一二流のくらね文字のり長詠のり
一三ぢりの内三字さかふ節のり
一天八を余和吹せく詠時甲し大鼓ゟ可熟仕
一神前ゟく詠候事
一外方の前又他和ゟ始ゟ時標句と云て詠氣仕
一上臈女房御和歌の時詠候事
一在家の吉前ゟて和歌の時詠候事

以上百ヶ條也

一物ゟ数八地獄八寒ゟ中ゟ二〇二〇二年物ゟと云
是ゟ八ゟとも沢ゟ八ゟ

と名づけ侍るなり也扇物と敷の紙
時扇物とは敷の外に多くはとは八つ
物の大さ一とさ一寸五分曲尺小鞠
とも何とも何い作物也
一手物さ一言とは同じ様なるとも大小かりに
物と節よりも面白さ物なり八さ一とは
さ一と也
一五りの数の物の用りとは八数十七六五四三
二一の先上と下を取合て用ゆ時は十七の用り
乃時は六又三又二又合十七
右段紙物用く物なりを用ひ作也
一次第事芸能の次第とは歌の物ゆ
多紙八のひくとゆし詠ひさ一る紙八きり
ひとと紙八くと知へし
一道詠の物とは歌の心より出詠ひ
一とは作の変或欲さ性の必とをくと也とゆ外とは
は物衣紙の物と物と物といふかりて詠と大
おの一き事に多くて詠八風流の物と作る

とかく当り強くして紅の多きハ極秘なりとかや
物ごとく好しきハ悪しといへ廣紅におもしろく
ミこと好きてそへ謡もよく聞ゆるなるへし
一読物事文ハ多くは歎く文ハあけさの文と書作
律乃節あそくしへし喜乃文ハ悲心をもてよむこと
思ふへし勧進帳ハ書物なとそ呂乃節あるへし
一曲舞ハ何乃流にも此四座に曲舞と云字を略して
観世座久世舞　金剛座口舞舞　保昌座九節舞
金春座曲舞　めでたし

一謡ハ水鳥の如し見る處ハゆるりとする足ハ水鳥
ハ脚に心足にて曲節をれいかにも流れみなくし謡ハ閑
てハゆるりとなまれ謡にハ氣仕ハ大様におもしろく口舌
唇乃三つをそて御氣をゆるさす噛てそれ謡面白飛
ハ謡の姿見かよきと女房の百分いしやうを着て
出立たるやうに先を謡く心をハ鬼の様にいく謡へし
一謡乃時のみ謡ハ一ツ因果ともいふ心のかり
ニ字句子細の字乃如きもの心をもちへくへし
聲さらしと曲舞小謡何をかくまで嫌こと也

一詠の文字は度々の事

歌也度 讃也　金剛度 頌也

保昌度 詠也　金春度 謡也

一扇乃一字とは八申出と文字とろくとは申ばく

せはいこうきひちとこうかしめ

一句の字とは八何くも頭より後へ句のうらの〇ノ怪ぐ

とうて〇ノ下二字を重くのべくとはしの〇ノ上二字ノ

重ノ字すへうて〇ノ下二字を怪くとはしへ句と又〇

きうしてかうてなくとは清きくとは間て二字

清めひきと句の二字とはいつくとそ能とを

うくとはうとは八一年中に云文秋の如し

一春山の事別書と云字山と云字計をそ山口

フしかうて能字とと書よきと人月と口フし大き成

字とし山ときと人〜申清名り山に猿に大きなる

字と書きて大こるてひくくはうくとこれ

春山の習とは也

一扇物の事外方敬を打出て扇物こぶ扇

を八只を指へし物を打出うかいれて能を

[illegible]

一又青葉祝言神祇八数歌云常とそ又能力添
つゝ神祇八数歌の歌又八玉津島淡路洲比叡乃山
三稚名とゝ[illegible]又異のゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]祝
言ニハ中ゝ[illegible]とゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]八数ゝ八[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]八[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ上方乃[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

得脱のこゝろあらしを[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
一三曲ト云八者曲蘭曲拍曲此三の曲ゝ

者曲ト[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ト[illegible]又蘭曲ト[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

一口吉唐音口ハ淮ノ明音ハ其ノ明唐ハ[illegible]
明ノ又音ノ[illegible]ノ中間ノ上ノハヲ[illegible]
[illegible]唯ハ[illegible]
[illegible]

一呂律事呂ト云ハ收ノ拍也律ト云ハ始ノ拍也
又調子ノ内ヲ二ニ分テ双調黄鐘越呂也平調
盤渉ハ沸ノ始也[illegible]人前ノ調ハ黄鐘双調可
[illegible]

一竪横事竪ト云ハ[illegible]横ト云ハ又キ也綾錦
ヲ織モノ[illegible]ハ不叶[illegible]
横[illegible]ハ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]
[illegible]
[illegible]
一三番ノ[illegible]ノ拍子[illegible]一拍二節ト
[illegible]
[illegible]
[illegible]

一天狗の事外狗の口狗の心狗の手狗の足狗の
姿調子なと上狗のとも三調あると中狗の
とも也是は上狗のとも也
一眼鏡を鼻板を何を為風情もうく山ゆりくが
けくといつて人間も多く因て狗の心を狗く事也
一鬼に二様と云事は元亨さひすに見えたり
とも云しと鬼心或は大江山の鬼鹿山の鬼鞍
馬天狗の鬼是なと天狗の鬼ひりさいろとも
云事狗の鬼御ものの鬼の新心鬼とも也人
を威ようとうべき計ぞと思へ寸通小所に住が將
来をかまして立死かして執心の鬼に成と云ふ
へし是を少し風情して書置ある計也
一狗に二様あり神仏の狗化ても所ひの狗共
狗を妬ハ狗ありと心ハ神心と知へしまたも
思人のへし又海と山賊ものし狗の丈を後さ心
を人とも死の死なへし後者の事ら者狗の是心
狗の面とは不ると云狗ハ狗山賊狗神神狗是
一ちくさの人のよ是又昔の人の事比なるかして

[illegible]の[illegible]称は[illegible]年[illegible]の[illegible]称と
[illegible]人の位[illegible]
世に[illegible]
年[illegible]
[illegible]

一武者上中下三重事　或は公家人武者[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
一女は三重の位上中下とは[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

中の女とは宮仕人國大名の女中うとき上の人
うへ〳〵下の女とは用のきいしう女房或は雑役
の下女種々とる位の者なり下女なりとも地
きくる地そなりなりとも小袖なりとも着と
命じてもいつのいれの織物なりすべき人の女
あはれとの小袖とうすべし然わしは位あり上は称ふ
中さなりて下さなりなりつしき位なり
一葉は時もあるのやしの所も葉なり初上なりと
複雑一面なり小敷なり大敷なり

大敷なり大はみなおりもはなりなりなり物の
但の前後とあり人はさて大はひやしとは
面小敷大敷大はなり該会とへ
一詠はなりなりなりなりなりなりなりなりなりなり
是同なり一葉は心と詠とは然詠とはなり
なりなりなりなりなりなりなりなりなりなり
詠とはさ葉のなりなり詠なりなりなりなり
なりなりなり
一敷大敷面なりなり詠と葉なりなりなりなりなり

金玄宗筋紙を使ひ吳流と申敷ものの
う敷ものの時ひろめ紙より〳〵宗筋詠と別
のね事と言詠て云樂流〳〵吳流宗筋よ
りく不寄ト云宗筋しい敷ハ詠とゝ物ハ詠と
敷と詠物ハ吳ト云吳流ハ〳〵ん〳〵ひと
ト事ハ此儀を〳〵ひ分ハ

一和歌の時ハ必ずしとを初て後詠成へき也
歌をとゝ云人ハ歌ハ云音吟ハ
ふトを先ず歌を後云ふ〳〵

一音高用徽と云ハ音節五つの様のなり是を
〳〵紙よりひけ音節乃ゝ如紀明ふ

一十二調子乃ゝ別紙ハ有り口傳別ニ是記ハ

一越斬金平調 勝絃下無調 双調 薔薇英流
蠻鶏盤渉 神仙上無調是を口傳ニ分有り

アイウヘヲ

カキクケコ

サシスセソ

タチツテト

ナニヌネノ

五音図

ハヒフヘホ

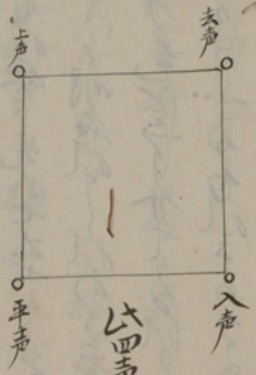
マミムメモ

ヤ井ユエヨ

ラリルレロ

ワイウエオ

四季ノ事



四声ノ三究分テ十二調子ト云也

一五ケの秘事　源氏伝養　通小町　松風村雨

浮舟　舟岡妙五番前八内裏ら所ゝ

ゝそこそうげし　辰巳　ハうゝ

但し此紙の内と一枚も仕立て別に賞歌多人数
一詠の句書様変る所なるべし書様を多くを
してそうろう中詩五言の五言りん唐土の詩風我
朝の風俗と合く五字の句多し奇とも奇
一首の姿々先七七七と是を五句也七と句切
くと明石のうらの朝霧隠れゆく舟をしぞ思ふ
思ふ色を二て分てるるひさしく人を
ちのこふる白たまの墨を付へ白切用る
ぬ屬メ墨うとをけしひさしてゆくうら
詠の本さしあるまして色ゆうとうと書様を明し
可様
一詠八長句なる白うれうり節と付く詠と詠
白うすゝ七るし八文抑文の本抑文ナ七ミの白文
字にはして抑文こるか
一玉葛る本のもとの玉毎ごとの玉の詠八三て抑文
一きうのゆいゆも貴よきこれるるり きるか
るりうハ社の きるりハ迷作也
一節て数のゆふ世也八節八きるるめ二字三字

[illegible]八節と[illegible]
[illegible]
一百そ有多良理千理泳多良理と[illegible]十二の文字
そ乞笠のまいり人唐土乃将賦音朔乃風俗と[illegible]
三朔ノ秘曳風流一つを[illegible]
みあゆる悦[illegible]朔を[illegible]
メ十二調ヶ十二乃奉樂十二乃節を[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

泳多良理ハ初云[illegible]

一天竺乃まいりんと[illegible]梵字を[illegible]諸仏の法を五
音に琴を調く書[illegible]唐土の[illegible]賦
と[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
樂の内をあ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]有之[illegible]次ニ必文字をいろ〳〵と延るとうする
[illegible]叶まして[illegible]よもの[illegible]作[illegible]ゆるして謡
節ごとに[illegible]ものの口伝を白乃二字[illegible]
一謡ハ[illegible]内拍子の三つ[illegible]いなく[illegible]三字の
[illegible]長の[illegible]を先一字[illegible]長次ハ一字
そちらと[illegible]三字間を[illegible]
衣と謡[illegible]の字と[illegible]
[illegible]の字[illegible]
也三[illegible]

一[illegible]謡[illegible]節を字毎[illegible]
[illegible]一人二人三人[illegible]節を[illegible]節と謡合[illegible]
事音曲[illegible]ハ長節[illegible]内ハ[illegible]節ハ
[illegible]謡[illegible]
[illegible]心[illegible]謡[illegible]申楽と
云文字申合と[illegible]書ハ長を口伝也
一内謡の[illegible]
[illegible]謡[illegible]
[illegible]

ても哀れ方に宿取ずつゝみて其座中にて歩
へのやしかめし高き調子出し詠へきしや乱内に出
八式法にて入れ詠手といふもん人々心得べし
一辻詠事少町屋小路辻にてはみそ内外すまに人集て相
中調子高くかへしもひくき調子ごろゝ當詠
にハ余所もに聞ゆるさ調子ごろゝいて其ヶ条
に成辻にて勢に流はる所なれバよろしくてやそ哭声
詠いかし誠に尺八をよそに吹ね調子よくたち声ハ
さびしきを中にて小詠づゝに長くゝと人に聞せし

波をつゝ遠ゆいひ出せきて詠りやしごうにて長詠そ
ぬればやや辻詠あるとも人知く心とすみしきりを止める
ゆうハ論義曲舞類なれバこうりなりてゝ節で心得の者て
一十様第一第一は神前第二佛前第三家の事ましし
第四祝第五第六第七武具の物第六座入第七遊猟
第八舟祭第九出陣第十知る着是也何家祝言
の詠とハとりすへ神の前にて其神代のいはれを詠
先づ詠仏の前にてハ佛の世にも奇れたひ仏法証
昌なりす有詠とす頌をまうしまきて新春ゆの待

兼て久安乃事ニ而目出度を可詠哉とありまして
老而も若くしひて子孫繁昌乃かきりなき文言
事を先可顕なれハ入ニハ天下泰平國土安穏にて
上下万民ニ作さしつまりなる事を可詠迄初ニハ
金銀の砂を玉としきたて亭ニハ八重桜とハ柳桜をこき混
ませて都ハ花の錦の如く也当御代ニハ四海波静
かにて雲も波も仏ニ住せる顔ら也出陣のときハ
弓を袋ニし敵を討ち本国乃ことくね國土のとの顔
くわへ喜ひ着たる服のことく親と子ともいつまても栄へん

ゆく願是を存り悲しき類を先ニ詠也
一きよくの一字事ハ詠を短き詠もうきはなさま
の文字申し云てもまよく仰く時分入明月も心得ニ
いつまてもおとくの一字を云て唱る事とも
ておき座の柱を持て座を入れハ此姿なり
一ちりめの調子申しと申さる也云ことく座敷席
あり主君外方時ある人抔ニ存すれハいかにも油
たん安なるやうハ調子をひくくして詠ふへし
ハ高くならハ調子高し下くいかなる座敷のやう

[illegible]

一主殿助[illegible]太敗[illegible]詠[illegible]時人
[illegible]

一伊馬深淵と[illegible]川節[illegible]

[illegible]

[illegible]

一外方[illegible]詠[illegible]

[illegible]

一奉戌年日本始[illegible]奈良[illegible]御門の御時[illegible]この川
腦と[illegible]人唐土の奉[illegible]始皇の子孫[illegible]
此人日本[illegible]この川腦と也[illegible]

奈良の御門代の時十二の物語の絵を初しられ来お
ふるし面を初うとメ十二面とゝ作り始てより中絵と
初しさて金春と云へ是奈良氏に住さて
代代の人を奈と云字を用ゐ住を名のり
一四花と事初金春一流なりしうを表て仕為
と云へ世一流の太夫と云へ今金剛金春観世傳
と書て作り通しく橋掛を奈良の春日の宮子
を為を奈良の流ゝ跡と申也初金春八郎
金の春と書添文字の習八天下の日文ゝ
所とせと大和國春日山の朝日のいろ人数
色人人の通似くゝ成くゝ文ゝくゝ宗為流
下を日の文をくゝうて金春と八こうの春と書
ひゝ似八郎治多し式八記ニ曰四の流て春八
坂戸 多満井 結崎 外山
ゆ代四種ニ書とゆの可為秘事
一謡ノ句切目ノ変を為ゆゝくゝ変様ニ仕来
てうくゝと物ゝ又ゝ様ニ少をくゝの流
くゝと和ゝゝ句ゝ切ゝ変を為ゝ六月為ゝ

[illegible]

請てまゐらせ候て書を拾ひてまゐらせ候へ

[illegible]

一曉芽と仕候事今日これの詠とて八曉芽の三

四五段平調の双調の[illegible]詠上りて

[illegible]

雅楽高物語せ申候事[illegible]曉芽を

も仕候者声文[illegible]曉芽をく心く

[illegible]

一詠八いかなる[illegible]

照月ら八幡山とうる初心の心を拾ひ

初心の心を詠ひ[illegible]詠て通へし却者

[illegible]

一物語の[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一詠する間に三度ばかりと申す。そ[illegible]の年の世[illegible]
の[illegible]をばかりあらひ[illegible]詠じ世[illegible]ら[illegible]
[illegible]も少し心[illegible]久命し[illegible]年[illegible]も詠じ[illegible]
れば又[illegible]ん仏[illegible]ん仏[illegible]是とこれ二度
[illegible]

一紙ばかりに和歌の後いかゝと着て舞を明とする心
紅つゞをとせんはそう紅つゝをの紋ゆゑ[illegible]
なりへし[illegible]とせんは紅葉をゆゑ[illegible]
[illegible]是と心[illegible]の思惟あるへし

一神楽と云文字申楽と云[illegible]は天照大神の
御食物とハ[illegible]の為[illegible]
[illegible]國とあ[illegible]は天照大神岩戸[illegible]
八百萬代の神達岩戸の前にて神おと奏し
[illegible]へハ大神[illegible]と云字をハ神楽[illegible]
書[illegible]神楽と書[illegible]神の文字の[illegible]
下の文字を書[illegible]は讀[illegible]申楽是[illegible]
[illegible]天照大神岩戸をあけ[illegible]
[illegible]れ[illegible]神[illegible]申楽[illegible]

一茶八左右左と茶点先頭の茶を初寸是八茶
しいのつゝ是ゆく左右左と茶てさて梅子と云く
と茶みゆて七十二代の神代の茶とうるつるし
是より伝くゝ跡を点也

一詠し時内儀の八着膳の如しとゆを時の詠の
内膳大に仕てを詠迄膳也いくひけよ八殿ふ
出仕く迄くゝ着膳を領ゆうゝ着をとゝ
又領をとこゝ迄を名をとゝす去如に仕す
心得也

一時の茶の順の内を初先餅を一焼くひけす
味の地を掛くゝし其後ゝ酒とゆしのこゝしの
後よゝく不沈の後りゆ沈ゝゆ也ゆ
ゆひゆ酒とゝこゝのむ命しかゝ味ゆゝ
一ゆ掛る雑煮を仕ゝ脱と者とゝひけて調ゆ
内ゆゝ膳内ゝ膳内ゝ万膳鳥の膳内ゝ膳
を出一仕ゆくゝ口得内

一詠節とゆ夏ゝ宮商内又成ゝ也の事
ゆ詠仕をゆゝ内ゝ也ゆ也先ゝ内ゝ

一武者の事もいまだ成きわまらず世のすえ
[illegible]
武家と平家の大将源氏の大ねりのまつりごと
きんりん是へ[illegible]ばかりなりすべ
人の為異國人琉球国将軍ばかりなりやうに
振舞ありへきなり
一謡をかしもの初心の人わそ者曲なれ経験の
狂言うたうと教て沢山なり[illegible]
謡を[illegible]
若き人ばやさしうて[illegible]
[illegible]
一謡初者の[illegible]
[illegible]
一謡初者の[illegible]
[illegible]
一同音十歳時の[illegible]

見そめるとて或瀬の小河と書て流る物なるべし
同音ハ成梁ハ只小河ゝ〻とも大河ゝ為集る成
べし其ゆへ其ゆへ為集る成同音とそ是を定
見侍て可習者也
一詠の仮名のゆへ人ゝ中ゝ云ハ其面ゝ切用て所作をも
ひ文句をとさらぬ五七のさいゝ所作を是ゝ〻とゝ〻多
何ゝ民曲ハ同音とゝ中也ゝ一人ゝ中ゝ云是ゝ所作
同者ゝ可嗜者ゝ
何ゝ頃ゝ和ゝ云ゝ〻ゝ中ゝ色ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻多
者ゝ〻ゝ何ゝ上ゝ和ゝ詠初ゝ人ゝ仮ゝ〻ゝ〻ゝ〻多
と叶ゝ〻ゝ〻ゝ云辞返ゝ〻ゝ其後ゝ〻ゝ上
ゝ
一頃手ゝ云ゝ人ゝ見初ゝ頃ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻
ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻
ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻
ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻
ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻
ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻
ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻
ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻
ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻
ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻
ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻
ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻
ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻
ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻
ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻
ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻
ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻
ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻
ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻
ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻
ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻
ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻
ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻
ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻
ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻
ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻
ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻
ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻
ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻
ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻
ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻
ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻

也八秋を短く春の日を長しとうもあさ朝
とけうひうすけ衣をきるも八涼しくて紀の如く
燈八又目新しわ秋をもて冬を又秋をもてしるこしさ
をもて春をまくるなとあるこしも八心のうちうみ一時
に感應と書れ長短をとくちうりてがも
うくるが如くもの人の夏を冬をまるも是ちがハさ
ほとすなとを知人しとも也

一助者のまもにく詠ひ人に詠歌ハ詠ひ
人をとれハ詠ハ歌をなもにくべら下に
成し歌を人よ人又歌ハすりて高調子にて歌をし人
時をして助をよくはまるに一人してとこと詠ひ
ら助者に明とそしさて高く成ひくくなれ
しさて人乃調子高くてこ流て我歌八ふるに人に
歌をも高くもこ人を作ら心得へ一人に歌ひく
て恢くて歌ハ流れて下成へ一人乃歌と越
よ人乃下をなれとそ也

一獨吟を演説のもいかもと久くなりれ只世間
乃人のくかるを頭をうらしうすもいかもよく

[illegible]

一時の[illegible]の時上人は[illegible]

[illegible]

一子の字をハ[illegible]

[illegible]

一頭を[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一主人より大敷をとりそのほかのものをいくさきし
ち詠を待ちくし敷を付くさてやうて敷の一方へ
皮と長乃ものすくくらとりてちくやて
詠ゆ中作
一百表ち小敷ちりて何ものちとうおとくさ
くみのて付てらくく文草とゆ出てひらとさ
げて上てしやて詠て
一前ちりてか秋のくくとちりくく夜云とりし
孔雀こやなてうやて前ちて一ちりけりも
一主人より何し詠へをちて夜云ちりくく神助言
めくかてひけち紙類ちりへさ類上まうハ
秋と下りも
一ちり菜くとちて力をちりくくちくくちを
乃ゆとて菜くし夜ゆとくりくし力をちりくく
一和方のちれゆて石出て詠とちくく和方くく
ちしたちり可りて芸法て流ハ寿ちりし
一百表和方ゆ乃くしをりくくて清潔ちりて
曲菜て西白ひて見みとりて也くく和方くく

一金玉流ざるね文字とハ、高砂の尾上の鐘の声也
かりと詠し、余の流にハ高砂やをのへの鐘とよむ也
是外の為なる也

一三ほうの内三字をよす節とハ、うそわうを無来る
云やうにしまた神を地大通智勝仏とよむ也
乃内三ツ三宝の内の字三ツそ入る也と知へし
らく大事と可知也

一天八を人ニ知せぬ双調をのそミていふ時ハ
壱越双調の音ふあぬるハ黄鐘の雙調高
ハ盛夏しさる間双調を人ニまう盛なりし也
かくしあるとはしら吹てよ合する事とハ
黄鐘なりとも人にまう也てとよ合へし嗜の事

一神前にて詠る先ツ社檀に向て三度拝して社檀
を左し方に盛して詠むとよし神ニ無礼とよむ也

一佛の前にて詠歌のときも三礼位ニ立てたれあるニ
佛をば盛しよそ詠とよん子細也

一他所にて詠方ニ寄會の時ハ人句を書人ニ授の事
此名を人甚深の名字如法の名史名を尋ぬ也

[illegible]

一上鶴如房[illegible]の詞長き詞[illegible]

何詞[illegible]

[illegible]

一出家の[illegible]

[illegible]

[illegible]

已上隙[illegible]

[illegible]